

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891800011		
法人名	社会福祉法人 健楽会		
事業所名	グループホーム いけだ		
所在地	福井県今立郡 池田町 常安 22-5		
自己評価作成日	平成30年 8月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成 30 年 8月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の方に少しでも居心地良く過ごしていただくために、研修や勉強会に力を入れて職員の質の向上に力を入れ取り組んでいます。DCMも取り組んでおり、利用者様の気持ちを考え、より良い支援ができるように話し合っています。また、恵まれた自然環境を利用し、畑でジャガイモや大根を作ったり、花を栽培したりと利用者様と一緒に畑作業に取り組んでいます。地域性を生かした活動にも心がけており、ジャガイモの収穫時には地域の子供たちと一緒に収穫を楽しまれています。最後まで「この居てよかった」と思っていただけよう、日々の行事や外出などを利用者様の意見を取り入れながら、楽しみのある生活を提供できたと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケアマッピングに長年取組み、職員と利用者とのより良い関わりの在り方を探求している。また、農作業に長けた利用者には農作業の指導を受けたり、郷土食の達人には調理の講師をしてもらったりするなど、利用者一人ひとりが持っている潜在的な力を生かす取組みや、生き生きとした表情を引き出すための関わりや行事の在り方を考えている。池田町という地域の特徴である「住民同士のかかわりの密度」を理解し、ケアに生かす工夫を行っている。全ての利用者が長年にわたり暮らし続けた地域の中で、最後まで暮らし続けて行けるよう、管理者を中心に利用者の思いに沿ったケアを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳ある暮らし」の理念のもと、お一人お一人のニーズや思いに沿ったケアの支援をさせていただいている。また、提供しているケアの実施状況や気が付いたことを話し合うミーティングを定期的に行っている。	開所時に職員で考えた「尊厳ある暮らし」の理念のもと、利用者の思いに沿ったケアの提供を心掛けている。しかし、それを実現するための具体的方針や目標の設定までの話し合いが行なわれていない。	事業所理念に沿ったケアを具体化するために、職員で介護実践の意味や意義をより深く考え、話し合い、事業所の方針や目標が作成されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭では地域の方を招待したり、ジャガイモの収穫時に幼稚園児たちを招いている。散髪や買い物などは、極力地域に出かけていき、顔なじみの関係を維持できるように努めている。	町の行事である敬老会やイベントに参加しているほか、法人の行事に地域住民、園児・児童等の参加がある。地域住民が知り合いを訪ねてきたり、花や農作物を持って、遊びに来るなど、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ出かけて行くことで、認知症があっても安心して暮らしていけることを理解してもらうよう取り組んでいる。納涼祭や施設での大きな行事には、地域の方を招いて、いつでも相談できる施設であるように努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、家族代表、地域住民代表、行政関係者を招き、毎月発行している「ほのぼの」新聞を見ただきながら活動状況の報告を行っている。また、気を付けなければいけないことや、より楽しみのある生活を送るためのアドバイスやご意見を頂いている。	定期的に民生委員や家族代表、住民が参加し開催している。出された提案や課題は、事業所内で話し合われたり、改善が行われたりしているが、議事録が作成されていない。	報告内容や協議内容、改善した内容を記録して、委員や家族に配布したり、事業所内に掲示し、会議の話し合いがサービス向上に活かされていることを理解いただき、より活発な会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指導監査を受けケアプラン等についての意見を求め、改善に努めている。グループホームに来苑されることもあり、現場を見たり、お伝えする機会がある。	介護度の変更等の時には連絡を密にしている。町行事等への参加の誘いや、時には利用者に講師役の依頼がある等の協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回、各部署の担当が集まり「身体拘束」について話し合いを行っている。	現在、身体拘束となる対象行為はないが、身体拘束防止のための研修を年2回行い、具体的な行為についての理解、確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員にストレスを与えないよう職場環境の改善に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内外の研修を通し、成年後見制度や日常生活支援事業についての理解を促した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず契約書を見てもらいながら疑問点等を伺う。再度説明を行い納得してもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回発行する、広報に要望やご意見等を公表し、その改善についても提示するようにしている。	ご意見箱を設置している他、家族の面会や行事の参加の際に、意見を把握している。また、年に1回家族アンケートを行い、結果を運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一年に一度、施設長と話す会が設けられている。アドバイスを頂いたり、改善できるようサポートをしてくださっている。他には、職員会議などで意見を言える場があるため、職員と話し合いながら改善に努めている。	施設長との面談や職員会議は意見や提案を言いやすい雰囲気であり、良い意見は、取り上げて実践してみる等、業務の改善につなげる機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産業医や社会保険労務士からのアドバイスを受け職員の健康管理また長時間労働をさせない工夫など整備している。給料基準についても同法人の規定に基づいて手当などの充実を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員が受けやすいように施設内研修(外部講師を含む)を行ったり、職員スキルを図るために外部研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の中でも研修を含め交流を深めて互いに質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安に思っていることを伺いケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際に家族より要望を聞かせていただきフェースシートに記入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどの方が在宅での生活が困難な状態で入居されているため、一日でも早く生活になれていただけるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや掃除、花の育て方や畑のアドバイスを頂くことで「自分の居場所」「役割」を築いてもらうために、できることは本人にしていただくように促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回、「暮らし」が見えるような広報を家族へ送付している。年に3回交流会を開くことで家族との時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町の行事や買い物、通院時などの際に馴染みの人と会うことが出来たり、自宅に帰られた際には近所の方に会うことができるなど、関係を継続できるように支援している。	「人との関係性が密である」という地域性もあり、JAへの買い物、墓参り、美容室などの馴染みの場所に出掛けることも多い。またこれまでの人間関係にも配慮して支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで、孤立することなく穏やかな生活が送れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者の多くは、隣接されている施設への入所、または死亡される場合である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、話し合い、月1~2回カンファレンスを行い、本人や家族からの要望等を職員間で共有し支援に努めている。	毎日の会話の中から利用者の思いや意向の把握を行っている。カンファレンス時には、家族からの意見もあわせ、多角的視点で話し合い、職員が本人の思いを共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方より「いままでの暮らし」をある程度伺っている。また初回時にはサービス担当者等に情報をもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の把握については介護日誌等に記載し、職員が把握できるようにしている。一日の過ごし方については介護記録等で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に一回、本人や家族の意向を踏まえた計画を作成している。月に1~2回程度のカンファレンスを行いケアのあり方について検討している。	職員間で日常的に課題とケアのあり方について話し合っている。身体的変化の大きい時は随時に介護計画の変更に取組み、本人や家族との話し合いの上で計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1~2回程度カンファレンスを行いケアのあり方について検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なし。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域貢献活動の一つに「伝承料理」の活動を行っている。利用者の方に協力していただき、伝承料理を教えていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前から受けている医療を存続できるように努めている。週1回程度往診していただいている。	本人及び家族の意向を尊重し、かかりつけ医と事業所の関係作りを行っている。町内の診療所や医院の受診には職員が付き添うようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養との合同の勉強会において、医師、看護師から意見を求めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	該当者なし		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人が元気なうちから、終末期にはどうしたいか聞いている。家族からの意見も尊重しながら、医師と連携し安心して安楽に暮らせるよう支援している。	本人と家族の意見を入所時に聞き、状態が変化したときにも随時説明を行っている。事業所で看取りを行ったことはあるが、マニュアルの作成はされていない。	看取りのマニュアルの作成を行うとともに、状態の変化に限らず、定期的に本人や家族の意向の確認を行うなど、利用者や家族が安心し、本人の意向に沿った生活が継続されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師による勉強会や新人研修時には「緊急講習指導」の講義を受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡網も配備されており年2回消防訓練を行っている。消防や地区の自警団の方とともに災害に対応できるように訓練を行っている。	緊急時の対応については、隣接する同法人の事業所との協力体制ができている。また消防や地区の住民の協力体制もできており、訓練も行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳ある暮らし」の理念を大切にし、接遇研修を行うなど、人格を傷つけないよう努めている。	「郷土料理の達人」に料理を教わったり、毎日読経したりするなど、利用者の生活歴を把握して、「一人ひとり」を大切にする対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服や外食での食べ物など、本人の希望や自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、服の色や履き心地のこだわり、使用している化粧品など個々によって違いがあるが、身だしなみや帰結に合わせたおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者様と一緒に食事をしたり、準備や盛り付け、台拭きなど、できることをしてもらうことで、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しむことができるよう支援をしている。	職員も利用者と一緒に食事をし、利用者が職員の弁当の評価をするなど、明るい雰囲気の中で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房で調理しているため、栄養バランスは確保されている。水分については、おやつのほかについて必要な分を確保できている。水分については、おやつのほか、食後にも取ってもらうなど、1日1800mlを心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に、うがいや歯磨き等の口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に応じて排泄介助等を行っている。	排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、排泄の失敗が心配な利用者には、自由にパットを使用できるよう、利用者の意向に沿った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や適度な運動を心掛けてスムーズな排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴になっているが、利用者の体調や意向を大切に、曜日の変更や清拭等を行っている。	週2回を基本としているが、入浴を嫌がる時には、一人で午後に入浴してもらったり、翌日にしたり、一人ひとりの希望に合わせた対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩やレクリエーションな適度な運動を促すことで、ほとんどの方が良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理することで、飲み忘れや飲み間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の盛り付けや洗濯物たたみ、針仕事、畑仕事、花の水やりなど、できる仕事をしてもらっている。また、外出や外食も楽しみにされているため、要望を聞き気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や気分もあるため、本人の希望に沿って行っている。	一人ひとりの意向に沿って、外出希望があるときには柔軟に対応している。また、酷暑の際は、体調を考えて日延べすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少々の金銭は本人が管理している方もいるが、本人が希望される大きな金額については家族の方から金銭を預かり通帳管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外線ボタンを押さなければいけないため、電話をかけたい時には、職員が支援している。お礼のハガキや年賀状についても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	頂いた花が花瓶に飾られたり、室内や廊下の飾られた手工芸品で季節感を取り入れている。廊下や玄関には写真や「ほのぼの」新聞を掲示し、入居者様同士が話し合ったり、くつろぎの場になるように工夫している。	廊下やホールは適当な広さで、随所に椅子が置いてあり、落ち着いた雰囲気である。廊下には季節感のある作品や利用者の生き生きした写真を掲示している。職員の作業スペース周りに椅子を置き、利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務所前を広くとりソファを置くことで、利用者様が悩みや相談、会話を楽みにできる環境ができています。廊下にもソファを置くことで利用者同士が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合いながら、入居されるまで使用していた使い慣れたもの、好みのものを持ってきてもらうようにしている。また、絵や写真、俳句などを飾ることで暖かで、家庭的な居心地よい空間になるように工夫している。	広めの個室で、ベッド以外は基本的に家庭から使い慣れたタンスや冷蔵庫等を持ち込んでいる。本人と相談しながら、本人の作品や家族の写真、家族の作品を掲示するなど、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴場やトイレには、目で見て分かるように看板が設置してある。廊下や居室にも分かるように看板やネームプレートを掲げてあり、本人が自分で理解できようように工夫している。		